



平成 22 年 10 月 27 日

各 位

上場会社名 トッパン・フォームズ株式会社  
 代表者 代表取締役社長 櫻井 醜  
 (コード番号 7862)  
 問合せ先責任者 取締役副社長 新田 健二  
 (TEL 03-6253-5720)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 22 年 4 月 28 日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 1. 平成 23 年 3 月期の連結業績予想値の修正

#### (1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想数値の修正(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

|   | 売上高     | 営業利益   | 経常利益   | 四半期純利益 | 1株当たり<br>四半期純利益 |
|---|---------|--------|--------|--------|-----------------|
|   | 百万円     | 百万円    | 百万円    | 百万円    | 円 銭             |
| 前回発表予想(A)                                 | 114,500 | 6,700  | 7,100  | 4,000  | 36.04           |
| 今回発表予想(B)                                 | 112,900 | 5,900  | 6,200  | 2,750  | 24.78           |
| 増減額(B-A)                                  | △1,600  | △800   | △900   | △1,250 |                 |
| 増減率(%)                                    | △1.4%   | △11.9% | △12.7% | △31.3% |                 |
| (ご参考)前期第 2 四半期実績<br>(平成 22 年 3 月期第 2 四半期) | 114,022 | 6,135  | 6,836  | 3,836  | 34.56           |

#### (2) 通期連結業績予想数値の修正(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

|                             | 売上高     | 営業利益   | 経常利益   | 当期純利益  | 1株当たり<br>当期純利益 |
|-----------------------------|---------|--------|--------|--------|----------------|
|                             | 百万円     | 百万円    | 百万円    | 百万円    | 円 銭            |
| 前回発表予想(A)                   | 235,000 | 13,700 | 14,500 | 8,200  | 73.88          |
| 今回発表予想(B)                   | 231,000 | 13,000 | 13,700 | 6,900  | 62.16          |
| 増減額(B-A)                    | △4,000  | △700   | △800   | △1,300 |                |
| 増減率(%)                      | △1.7%   | △5.1%  | △5.5%  | △15.9% |                |
| (ご参考)前期実績<br>(平成 22 年 3 月期) | 231,616 | 12,997 | 14,199 | 7,512  | 67.68          |

### 2. 修正の理由

#### (1) 第 2 四半期連結累計期間業績予想

当社を取り巻く経営環境は、急激な円高傾向、企業の経費削減や設備投資抑制などにより、依然として厳しい状況で推移いたしました。

売上高につきましては、帳票改訂需要や周辺印刷物の積極的な取り込みと、通知業務周辺の業務受託領域の拡大につとめましたが、需要量の減少と価格の下落傾向に歯止めがかからず、当初の予想を下回る見込みです。

営業利益につきましては、製造コストの改善や営業効率の向上等に努めましたが、売上高の減少に伴う減益要因を補うことが出来ず、当初の予想を下回る見込みです。

四半期純利益につきましては、上記の状況に加え、特別損失の計上が想定以上に増加したため、前回予想を修正いたしました。なお、特別損失の主な内容については、下記に記載の通りです。

(特別損失の計上)

当第1四半期連結会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)が適用されることに伴い、期首時点で発生する影響額715百万円を特別損失に計上しました。

また、当社が保有する「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、減損処理による投資有価証券評価損 690 百万円を特別損失に計上する予定です。

(2) 通期連結業績予想

通期の見通しは、引き続き先行き不透明な経営環境が続くものと思われ、売上につきましては、当初予想を下回る見込みです。そうした状況に対し、当社においては、前期より抜本的な経営改革を目指し、各施策に取り組んでおりますが、当期においては、それをさらに強化し推進しております。具体的には、労務コストの圧縮、経費削減、製造拠点の統廃合、物流基盤の整備等により、企業体質の強化と業績向上を図ってまいります。その結果、利益につきましては、当初後半期において想定していた水準を確保する見込みです。

※上記の予想は、本資料発表日現在において想定できる経済情勢、市場動向などを前提として作成したものであり、今後の様々な要因により、予想と異なる結果となる可能性があります。

以上